



安全・適正就業だより

☆☆☆☆事故防止、急ぐな、あせるな、気をめくな（全国統一スローガン）☆☆☆☆☆☆

巡回視察報告 事故0を目指して

9月6日、秩父市立秩父第一中学校を視察しました。ここには、校務員4名が2班に分かれ1週間交替で就業しています。校務員室には業務に使用する用具がきちんと整理されて保管してありました。また、毎週1回業務責任者が訪問し、学校と校務員間の仕事の連絡調整を行っています。

10月4日、秩父市立秩父第一小学校で行われた「仲良し体育祭」で駐車場班の就業現場を視察しました。6名の会員が分散して就業していました。各場所の連絡は個人の携帯電話を利用しています。契約に休憩時間が取られていないので昼食などの時、気を遣うなどの話がありました。こちらからの指摘事項はありませんでした。



【出張研修】安全・適正就業委員会

10月24日、埼玉県民活動総合センターで行われた安全就業研修会に清川委員長、杉田副委員長、鈴木副委員長、萩原委員、嶋田(事務局)の5名が参加しました。次のような話がありました。

- ・安全は全てに優先し、「自分の安全は自分で守る」という意識を持つことが大切である。
- ・人は自分で決めたことは守る。
- ・「自己啓発」を支えるものは意欲（やる気）である。これは、他から与えられるものではなく、あくまで自分の内部から起こってくるものである。
- ・「安全確認」、事故要因が何なのか反省することなく、そのまま放置されている事が多い。
- ・視覚理解6割、聴覚理解2割。その他。
- ・事故要因として、マンネリ化（慣れ）、このくらいは、もう少しだから、相手との相性が悪い（気が合わない）などが多い。
- ・ヒヤリハットは事故が起こる前兆である。

剪定作業における転落事故の現状と防止対策について

全シ協発行「安全就業ニュース」8月号より

1 設置、設備点検

◆脚立の設置場所や設備点検を十分に行い、脚立を上がる際の災害を防止する

・止め具の外れ、脚部の故障

—脚立自体の倒れ・崩壊

—自分以外の人が収納した後を使用する際は要点検

・軟弱な地盤、傾いた地盤の上への設置

—脚立だけでは倒れないが、上がる最中の体重移動で倒れる

—軟弱な地盤上では板を敷いた上に設置するなど工夫する

2 作業姿勢（1）

◆バランスは崩しやすい行動と、転落方向を知る

◆作業中は一旦脚立を降りて脚立の位置を調整しなおす

・身の乗り出し

—作業者の重心が移動し、脚立から転落

—脚立に力が加わることで脚立自体が倒れるリスク増大

・上向き姿勢

—姿勢のコントロールが難しくなる。特に後方に倒れやすい

・反動、すっぽ抜け

—反動では後方、すっぽ抜けでは前方に倒れやすい

・物品の持ち上げ

—素手の状態より全体的に不安定になりやすい

3 作業姿勢（2）

◆脚立と身体を接触させ、姿勢の安定性を高める

・脚立への寄りかかり

—人の重心に近い、太ももから腰周辺を脚立の側面に接触させる

—前への体重移動に対しては身体を支える効果

—後ろに倒れるのを支える効果はない

・天板のまたぎ

—脚の内側で脚立と接触

—左右方向への体重移動に対して身体を支える効果

—脚立が倒れやすい方向を作業正面とするため注意が必要

4 作業姿勢（3）

・脚立上への立ち方

—天板から少なくとも2段下の踏ざんに立つ

—天板の1段下に立つだけでは十分に体を支えることができない

(労働安全衛生総合研究所「脚立からの転落災害の現状と防止対策の展望」から抜粋)

////////////////////////////////////

秩父市野坂町1-13-14

電話 0494-22-4454

秩父市シルバー人材センター

安全・適正就業委員会

